

「匂い」とは、ぼかすという色彩語で濃から 淡へ順々に重ねられます。宮中ではおめで たい時に多く着用されました。

皇后陛下が平成「即位礼」の際ご着用



日本の象徴である菊の白と高貴な色であ る紫の組み合わせは、平安貴族にとって 若葉色ともいいます。 特別な配色でした。



とも呼ばれます。

う紺青色ではなく陶磁器の青磁の緑を表 咲き、やがて黄金色に輝く実をもたらす します。その神秘的に輝く美しさは秘色 橘の木の風情を表します。

花橘(はなたちばな)

皇后雅子さまが「結婚の儀」の際ご着用



花薄(はなすすき)

映える風情を表します。ひんやりとした 情を表します。上品さの中に可愛らしさ 初秋の爽やかな空気が感じられます。



かさねの色目でいう瑠璃色とは現在でい 春を迎え、葉が色づき初夏には白い花が 秋の野、風になびくススキの穂が青空に 初春に咲いた紅梅に雪が降り積もった風 を感じる重ね色です。



春から初夏、深い緑の葉の重なりの上に 紫の花が咲く杜若の色目を表します。目

に映える鮮やかな紫と緑が季節を爽やか に彩ります。



萌え出た若葉のような冴えた黄味の緑で 女性皇族方が令和「即位礼」の際ご着用

色 お

平安時代、宮中の女性のオシ 衣を重ね着るこ 五衣」で四季を表現す の菊、 つ

唐衣の内側に着る5枚重ね一番外側に着る「唐衣」の美 生み出され た色合わ る色彩、



紫の染めが行われるようになるのは飛鳥 時代からで、以来「紫」は優艶・高貴な色 として憧憬されてきました。



秋に咲いた白菊の葉と花を表します。白 菊は、日本の国花としてなじみ深い菊の 中でも最も格が高いとされています。



秋篠宮妃紀子さまが「結婚の儀」の際ご着用



秋、可憐に白く咲いたナデシコの花と葉 夏から秋にかけ美しい花を咲かせるオミ 春の山桜の花の色目を表します。白の表 春から夏にかけ、優美に流れ咲く藤の花 冬の水辺に張る透き通った氷の神秘的な ナエシを表します。オミナエシの花は美 地にほんのりと紅味を含んだ裏地を重 しさの象徴として古来より親しまれてき ね、透かして見せる事で山桜の花の色目 して愛されてきました。 ました。



を表現しています。



を表します。藤色は古来より高貴な色と 情景を表します。純白の洗練された美し



さが目を惹く色目です。



バラの花の色目を表します。平安時代に は邸内に植えたバラを鑑賞したことが源 氏物語に記されています。

皇后陛下が大正「即位礼」の際ご着用